

有意義なカンパはお金ではなく 正しい声を上げること（啓発）です

●仮に100億円のカンパをもらったとしても、繁殖の間違いを理解できない者が減っていないと、不幸な動物は減らない。カンパが一円もなくとも、繁殖の間違いを理解する者が増えれば、当方の負担金額もかなり減る。

●愛護団体が保護収容施設を持つと逆効果となることもある。収容施設の前に棄てる悪い飼い主もでてくる。動物はモノではない。収容施設にぎゅうぎゅう詰めに保管という訳にはいかない。動物同士の相性が合わなければ、殺し合いになるほどのケンカにもなる。多頭保護はよほど優れた施設でない限り、虐待飼育になったりする。エサだけでなく、運動させるスペースの確保、動物同士の相性の問題を視野に入れるのは必要不可欠。これらのことを考えると保護収容施設建設は費用対効果が悪い。

●当方がカンパを喜ばないのは、大きな見返りを求められるのではという恐怖心から。例えば、Aさんが私に2000円カンパしたとする。その後、一人の不良飼い主情報をAさんからリークされたら、2000円では到底解決できない大問題を抱えることになる。いかんせん、不良飼い主への啓発には相当なエネルギーと金銭を使うハメになる。啓発だけでも2000円では済むはずがない。交通費をかけて不良飼い主宅へ何度も足を運んでも相手は理解しない。「趣旨は理解したけど実行はしない」と言うへそ曲がりもいれば、「ボランティアなら引き取れよ、今からオマエの家の前に棄てるから必ず拾えよ！」という卑劣な者が後を絶たない。



こんなこともあった。198円分のエサをカンパした者がいた。その女性は翌日、仔猫4匹を私に押しつけた。「昨日カンパしましたよね。世話してちょうだい」と。捨て猫を4匹保護して私に丸投げしたのだった。198円のエサでどうやって猫4匹の世話を一生続けられるというのか。その女性はペテン師で有名だと後で解ったが。ボランティアは皆、このような被害に恒常的に遭っている。相手の狡さに腸が煮えくりかえる思いだが、動物が可哀想で引き取ってしまうのだ。そうでなくても多頭保護で精神面・経済面で憔悴しきっているというのに。多頭保護の大変さについては、一匹でも大変だと感じている方なら、理解できるはず。



●当方が投じた活動費の半分以上は、飼い主に代わっての去勢不妊手術費の肩代わり。残りは啓発活動にかかる事務費・通信費と保護にかかるエサ代等。一人でも多くの方が『去勢不妊は飼い主責務』と理解してくれば支出は激減する。野良猫の場合も同じ。私が猫を棄てて野良猫にしたとか、私が無責任にエサを与えるだけで産ませたというのであれば、私に全ての責任があるが、私には何の責任もない。エサを与えている人にとって野良猫だということは私にとっても野良猫である。なので、私が野良猫の手術費を無限に死ぬまで出し続ける義務はない。

《繁殖の間違いについて》

一匹の猫が一度に5匹・年2回産むとして一年後には72匹に。さらに一年後には5112匹に。犬は猫より多産のため、もっと増えます。なので、自分だけが去勢不妊を理解したところで、理解していない人へ理解させる努力を怠ると、不幸ないのちは増え続けます。



●もらってくれる人がいるなら産ませても良いとは思いません。なぜなら、産ませた飼い主は命を持って余し、一日も早く家から追い出す目的で、無理矢理、悪い人を良い人に見立てて、ゆずり渡して、せいせいしてるのです。それでいて「大丈夫、大切に大切に飼ってくれる人にあげたらから！幸

せに暮らしているよ！」と根拠もなく断定して自己免責するのです。当方はこういう飼い主を見ると『残酷な人』と判断します。もらわれていった先で、粗末に飼われて衰弱死したり、野良化させられて迷惑がられて毒殺されたり、保健所に持ち込まれたりすることが多々あります。暗い現実にこそ目を向けるべきでしょう。

《責任の所在について》

一人でも多くの方が『去勢不妊は飼い主責務』と理解すれば当方の支出は激減する。野良猫も同じ。『去勢不妊は給餌者責務』である。私が猫を棄てて野良猫にしたとか、私が無責任にエサを与えるだけで産ませたというのであれば、私に全ての責任があるが、私には何の責任もない。エサを与えている人にとって野良猫だということは私にとっても野良猫である。なので、私が野良猫の手術費を無限に死ぬまで出し続ける義務はない。

一人でも多くの方が以下のメッセージを発信してくださることが、お金よりもはるかに成果の上がる『実質カンパ』にあたります。

〈成果の上がる啓発文言〉

- 繁殖は虐待である
- 動物を売る人も飼う人も反社会的
- 産ませた飼い主は命を持って余し、一日も早く、家から追い出す目的で新しい飼い主を探すため、残酷だと思いませんか。

人間は自分が思うほど、周りから愛されていません。周りから好かれたくて無駄なエネルギーを使う暇があるなら、すべきことをしましょう。自分に恥じない行動をとり続ければ「不動心」が身につきます。言うべき相手へ言うべきことを言わず、言いやすい弱いところへ文句を言う習慣を身につけると、ますます弱くて卑怯な人間になっていきます。

〒960-8066 福島市矢剣町11-3 星野節子 024-563-7650 (tel fax)